

## Progressive aspect of “zai (在)” and tenses in Mandarin Chinese

AOKI Moe

### Abstract

This paper explores the meaning of “zai (在),” which is regarded as a word expressing a progressive aspect in Mandarin Chinese. From the point of view of tenses, the progressive aspects of “zai” are composed of three different parts, namely, a simple-past, a simple- present and a simple -future. This paper uses propositional-logic and predicate-logic to analyze ‘zai’sentences.



# 時態成分“在”の時制構造における意味と論理

青木 萌

キーワード：進行態 絶対時間 相対時間 述語論理 命題論理

要旨 本稿は論理的な観点から、時間副詞の“在”と時制の関係を考察する。そこで、副詞の“在”は時態成分として〔進行〕の意味を表すという仮説のもと論考を進める。具体的な考察方法は、絶対時間と相対時間の二つの角度から、時態副詞の“在”が生起する文における出来事を考察する。論点は以下の二点である。

第一に、絶対時間の角度から考察すると、発話時間(speech-time)と時態副詞の“在”的文における出来事時間(event-time)との関係は三つのタイプがあると見なす。つまり、〔過去〕における〔進行〕、〔現在〕における〔進行〕、そして〔未来〕における〔進行〕である。

第二としては、参照時間(reference-time)の視点から考察すると、参照時間と時態副詞の“在”的文における出来事は、〔簡単〕の関係を構成するということである。

また、上述の二つの論点に関連し、時態副詞の“在”が表す文型意味、および時態副詞“在”的文において生起する各成分の間の意味関係を明らかにさせることを試みる。そのための主たる分析方法として、形式言

語の研究方法である命題論理 (propositional-logic) と述語論理 (predicate-logic) を運用する。

## 1. 絶対時間と相対時間

本研究は“在”と時制の関係に着目した考察を行う。その前提として“在”は〔進行〕の意味を表す時態副詞であると見なす<sup>1)</sup>。考察を進める上で重要なのは絶対時間と相対時間の概念である。本稿ではこの二つによって時制が構成されていると考える。即ち、絶対時間は、発話時間 (speech-time) から“在”が生起する文、即ち出来事時間 (event-time) を観察するということである。一方、相対時間は、参照時間 (reference-time) から“在”が生起する文を観察するということである。そこで本論に入る前に時制について明解な記述を残している龚千炎 (1995) の中から例を取り挙げて、絶対時間と相対時間について確認しておくことにしたい。龚千炎 (1995: 32) はまず絶対時間の例として以下の三つを挙げている。なお、本論文の中国語に対する日本語訳は全て筆者が行ったものである。

- (1) 他昨天走的。(彼は昨日行った。)
- (2) 我现在休息。(私はいま休憩している。)
- (3) 他明天才走。(彼は明日になってから行く。)

まず (1) の“他昨天走的”的例について説明しよう。この (1) における“他昨天走的”には“昨天”が生起している。従って、発話時間から見ると、“他走”という出来事は〔過去〕の時制であると見なすことができる。

次に (2) の“我現在休息”的例を見られたい。ここでは、“現在”が生起している。よって、発話時間から考えると、“我休息”という出来

事は〔現在〕の時制であるということが分かる。

そして(3)の“他明天才走”においては、“明天”が生起している。故に、発話時間の視点から言うと、“他走”という出来事は〔未来〕において発生すると考えることができる。

以上の三例はいずれも発話時間の角度から出来事を捉えた絶対時間による分析である。次は相対時間の角度から考えてみることにしよう。これは即ち参照時間から出来事を観察するということである。これも同様に三つの例を用いてそれに対し解説を加える。下記の三例は龜千炎(1995: 33-34)からの引用である。

(4) 昨天我到他家时, 他离开家好几天了。

(昨日私が彼の家に着いた時、彼は家を出て数日たっていた。)

(5) 明天我到他家时, 他可能在家里等候。

(明日私が彼の家に着いた時、彼はおそらく家で待っているだろう。)

(6) 明天你来我家时, 我恐怕还没动身呢。

(明日君が私の家に来た時、私はおそらくまだ出発していないでしょう。)

まず、(4)の例から説明しよう。ここでは“昨天我到他家时”が参照時間である。従って、この“昨天我到他家时”から“他离开家好几天了”という出来事を見ると“昨天我到他家时”的時点で“他离开家好几天了”は既に起こっている。故に、この両者の時間関係を〔已然〕と呼ぶことができる。

次に、(5)の文について考えると、参照時間となる“明天我到他家时”と“他在家里等候”という出来事は同じ時間帯に生起したと判断できるので〔簡単〕と呼ぶことができる。

そして、(6)の文における参照時間の“明天你来我家时”から見ると、

“我动身” という出来事はまだ発生していない。故に、二つの節における時間の関係は [未然] と称することができる。

また、龚千炎 (1995: 34) は、上の (4)、(5)、(6) は絶対時間による判断も可能であるとした。

(4a) 昨天我到他家时, 他离开家好几天了。

(昨日私が彼の家に着いた時、彼は家を出て数日たっていた。)

(5a) 明天我到他家时, 他可能在家里等候。

(明日私が彼の家に着いた時、彼はおそらく家で待っているだろう。)

(6a) 明天你来我家时, 我恐怕还没动身呢。

(明日君が私の家に来た時、私はおそらくまだ出発していないでしょう。)

(4a) は発話時間の角度からいうと、“昨天” が生起しているので “他离开家好几天了” という出来事は [過去] の時制であると見なしえる。

そして (5a) は “明天” が生起していることから、“他在家里等候” という出来事は [未来] の時制であると考えられる。同様に (6a) においても発話時間から考えると、いずれも “明天” が用いられているが故、“我动身” という出来事は [未来] の時制であると解すことができる。

以上から、時制は絶対時間と相対時間を織り交ぜての解釈が可能であるということが分かった。そこで、次章では実際に [進行] の意味を表す “在” が生起する用例を用いて “在” 構文と時制構造の関係を論じることにしよう。

## 2. “在” における時制構造

本章では時態副詞の “在” がどのような時制構造を形成するのかに焦

点を置いた論考を展開する。そこで、テレビドラマと小説から引用した例を用いて考察を行う。用例は全部で六つある。

まず (1) の文について考えよう。

## 2.1. [過去] – [簡単] における“在”構文

(1) 你知道吗，我跟茜茜第一次见面就在这里，当时她在找《简·爱》，我呢，在看《悲惨世界》，莫名其妙，我们两个人就撞在一起了。  
(テレビドラマ《儿女情更长》第2話)

(知っている、僕が茜茜と初めて会ったのはここなんだ。あの時彼女は《简·爱》を読んでいて、僕は《悲惨世界》を見ていたんだ。  
すると不思議にも知りあってしまったんだ。)

この文では“我跟茜茜第一次见面就在这里，当时她在找《简·爱》”の箇所に注目しよう。まずこの文の時制について検討する。絶対時間の視点、つまり発話時間から“她在找《简·爱》”という出来事を観察すると、ここでは“当时”が生起しているので“她在找《简·爱》”は[過去]において行われた出来事であるということが分かる。つまり、“在”は[過去]における[進行]を示していると見なす。一方、相対時間の視点からいうと、参照時間の“当时”と“她在找《简·爱》”は[簡単]の関係にあると見なしえる。即ち、“当时”という時間帯において、“她在找《简·爱》”という出来事が同時に起こっていると解釈することができる。

さて、次は“在”がなぜ[進行]の意味として成立したのかについて考える。それは、動詞の“找”が[持続]の意味特徴を有しているからである。つまり、ここでの“找”は「探す」という意味を表し、探したもののが見つかるまで、或いは、諦めるまで永遠に[持続]し続ける行為である。従って、“她在找《简·爱》”という出来事が論理上[終息]する

ことなく存在することが可能となり、[進行] の表現が成立すると解釈することができる<sup>2)</sup>。

また“在”に後続する目的語の省略についても注目されたい。この“她在找《简・爱》”という文では“在”的後に場所を表す目的語が生起していない。しかし、“她在找《简・爱》”の前の節の“我跟茜茜第一次见面就在这里”では“这里”が生起している。故に、“她在找《简・爱》”の出来事地点は“这里”であると推測しえる。つまり、“这里”は“我跟茜茜第一次见面就在这里”において既に生起したので、“她在找《简・爱》”では既知の情報として省略されたと考えることができる<sup>3)</sup>。よって、“她在找《简・爱》”に含まれる意味は厳密にいうと「彼女が、ここにおいて、彼女が《简・爱》を探している」であると見なしえる。

このような解釈がなされると、“在”が示す意味役割を以下のように仮定することができる。つまり、“她在找《简・爱》”における“在”は出来事の場所を導く役割と、複数の出来事の存在を示す役割を担っているということである。そこで松村（2005）の理論に倣い、命題論理（propositional-logic）と述語論理（predicate-logic）を運用して、“在”構文をより厳密に解析することにしたい。これにより、“在”が表す意味役割、および“在”と文中の他の成分との意味関係をはっきりとさせることができる。

丁声树等（2009 [1961]）<sup>4)</sup>と李华倬（2010）<sup>5)</sup>の記述に従うと、“在”は出来事と、その出来事が行われる場所を同時に表現すると考えることができる。そのため、“她在找《简・爱》”では、「彼女が《简・爱》を探す」と「彼女が《简・爱》を探すという出来事がここに存在する」という二つの命題内容が含まれていると見なしえる。そこでこれらの命題内容を論理式によって表現すると次のような記述になる。（1a）を見られたい。

(1a) 探ス ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ

找' (她, 《简・爱》) & 在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}

この論理式は“找' (她, 《简・爱》)”と“在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}”といった二つの命題によって構成された複合命題である<sup>6)</sup>。また、この二つの命題の間には“&”の記号が用いられている。これは「連言」(conjunction)であり、二つの命題が同時に成立していることを意味する。即ち、この式は、“找' (她, 《简・爱》)”が「彼女が《简・爱》を探す」という意味を、そして“在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}”が「彼女が《简・爱》を探すという出来事がここに存在する」という意味を表している。

また、論理的には“找' (她, 《简・爱》) & 在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}”における“找' (她, 《简・爱》)”と“在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}”の二命題は“&”によって結合されているので、この二つの命題は入れ替えても意味的に変わりはない。しかし、この式では“找' (她, 《简・爱》)”が“在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}”の第一項に用いられて連鎖の関係を構成し、演繹している。従って、“找' (她, 《简・爱》)”の命題が前方に、そして“在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}”の命題が後に置かれることになる。

さて、この式は一見これで“她在找《简・爱》”に含まれている意味を全て適格に記述したように思える。しかしながら、“找' (她, 《简・爱》) & 在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}”という二つの命題は、「彼女が《简・爱》を探す」という出来事と「彼女が《简・爱》を探すという出来事がここに存在する」という内容を表現しているだけで〔進行〕の意を完全には表わしていないといえる。要するに、“找' (她, 《简・爱》) & 在' {找' (她, 《简・爱》), 这里}”は“她在找《简・爱》”という出来事がいくつも存在しているといった様態、即ち、〔進行〕の意

味を十分に示していないのである。そこで、[進行] を表す “在” は「～が、～において、～という様態にある」という文型意味を構築すると考えると、複数の “她在找《简・爱》” という出来事の存在が保証されることになり、[進行] の意として解釈することが可能となる。従って、“她在找《简・爱》” の文全体が表す意味は「彼女が、ここにおいて、彼女が《简・爱》を探している」であると考えるに到りうる。

従って以上の見解から、“在” 構文に含まれる意味は厳密に「彼女が《简・爱》を探す」と「彼女が《简・爱》を探すという出来事がここに存在する」、そして更に「彼女が、ここにおいて、彼女が《简・爱》を探しかつその出来事がここに存在する」という三つの意を包摂していると見なしうるので、これら三つの命題内容を論理表記すると (1a) は以下の (1b) のように修正すべきである。

(1b) ~ニオイテ 探ス ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ  
 在’ [她, 这里, 找’ (她, 《简・爱》) & 在’ 找’ (她, 《简・爱》), 这里]  
 アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ

この論理式は、“找’ (她, 《简・爱》)” が「彼女が《简・爱》を探す」という意味を表わし、“在’ 找’ (她, 《简・爱》), 这里)” が「彼女が《简・爱》を探すという出来事がここに存在する」という意味を表わし、“在’ [她, 这里, 找’ (她, 《简・爱》) & 在’ 找’ (她, 《简・爱》), 这里]” が「彼女が、ここにおいて、彼女が《简・爱》を探しかつその出来事がここに存在するという様態にある」という意味を表わしている。

この (1b) の論理式について更に詳しく説明しよう。

まず、式全体を包括する “在” に留意されたい。この一番外側に用いられた “在” は、“她” と “这里” と “找’ (她, 《简・爱》) & 在’ 找’ (她, 《简・爱》, 这里)” といった三つの命題の間の関係を表している。従って、“在” は述語の役割を果たしていると考える。即ち数学

的に言い換えると、“在”は三つの項をとる函数の役割を担っているといえる。次に、“在”函数の中に含まれる三つの項に視線を移そう。まず、一項目にある“她”は“找”的動作主である。そして二項目の“这里”は場所を表している。最後の三項目の“找’(她,《简・爱》) & 在’{找’(她,《简・爱》), 这里}”は「彼女が《简・爱》を探し、かつその彼女が《简・爱》を探すといった出来事がここに存在する」という出来事の意味を示している。そして、(1b) の全体の式である“在’[她, 这里, 找’(她,《简・爱》) & 在’{找’(她,《简・爱》), 这里}]”という命題が意味するのは、“她在找《简・爱》”という出来事が変化することなく存在していることを表している。つまり、「彼女が、ここにおいて、彼女が《简・爱》を探しかつその出来事がここに存在するという様態にある」と読み、[進行] の出来事を記述していると見なす。

ここで指摘しておきたいことは、この (1b) の式では“在”が函数として二回用いられているということである。即ち、式全体の函数を担う“在”は[進行]の意味を造り、三項目の関数を務める“在”は出来事の場所を導き出す役割を果たしていると解する。これは李华倬(2010)<sup>7)</sup>と張斌(2001)<sup>8)</sup>の見解をより厳密に形式化したといえる。

以上から、[進行]を表す“在”は「～が、～において、～という様態にある」という文型意味を構成しているということが分かった。さて、この“她在找《简・爱》”には[過去]の時制を定める“当时”が生起しているので、(1b) の式に“当时”的意味を加えると以下の (1c) のような論理式となる。

- (1c) ~ニオイテ 探ス ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ  
 有’【在’[她, 这里, 找’(她,《简・爱》) & 在’{找’(她,《简・爱》), 这里}], 当时】  
 アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ  
 アル ~ガ ~ガ ~ガ ~トイウ時制ニ

この式は「彼女がここで《简・爱》を探しているが、当時という〔過去〕の時制にある」という意味を表している。つまり、〔過去〕の時制を指定する“当時”的意味は“她在找《简・爱》”全体に影響を与えていいると考えるのである。

次は(2)の論考へと移ろう。ここでは“我前两天在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”という文において“前两天”が〔過去〕の時制を決定づける役割を果たしている。

(2) 我前两天在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》。(テレビドラマ《爱情公寓3》第20話)

(私、数日前に道端で誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売っているのを見たわ。)

この文では“我前两天在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”の箇所が考察対象である。最初にこの文の時制について検討しよう。まず発話時間の視点から見ると、“我前两天在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”には“前两天”が生起しているので、“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”という出来事が〔過去〕において行われた〔進行〕であると見なすことになる。一方、参照時間の角度から考察すると、“前两天”的時点では、“在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”という出来事がその現場で〔進行〕していることが知覚しえるので、両者の関係は〔簡単〕であると見なすことができる。

今度は“在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”における“卖”という動詞に留意すると、ここでの“卖”は〔持続〕の意味特徴を有していると考えられる。つまり、概念上“卖”が終わりなく続くことによって、“有人卖《海贼王大战爱情三脚猫》”という出来事の存在、言い換えれば“有人卖《海贼王大战爱情三脚猫》”の〔進行〕が保証されるのである。

また、この文の目的語の省略に関しては、“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”の前方にある“街上”に目を向ける必要がある。つまり、“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”の前に“街上”が生起し、ここで既に場所の概念が存在していることから、“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”では“街上”を既知の情報として省略したと考えができる。従って以上から、“有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”に内在される意味は「誰かが、道端において、《海贼王大战爱情三脚猫》を売っている」と考えられる。

では、この“我前两天在街上看到有人在卖《海贼王大战爱情三脚猫》”において、[進行]の意を表す“在”と[過去]の時制を決定させる“前两天”的成分に注目して論理表記を行うことにしたい。

(2a) ～ニオイテ 売ル ～ガ ～ヲ  
有'【在'〔 ϕ, 街上, 卖' (ϕ, 《海贼王大战爱情三脚猫》)  
アル ～ガ ～ニオイテ  
アル ～ガ  
存在スル ～ガ ～ニ  
& 在' {卖' (ϕ, 《海贼王大战爱情三脚猫》), 街上], 前两天】  
～トイウ様態ニ

この論理式は、まず“卖’ ( $\phi$ , 《海贼王大战爱情三脚猫》)”が「誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売る」という意味を表している。次に、“在’ {卖’ ( $\phi$ , 《海贼王大战爱情三脚猫》), 街上}”が「誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売るという出来事が、道端に存在する」という意味を表している。そして、“在’ [ $\phi$ , 街上, 卖’ ( $\phi$ , 《海贼王大战爱情三脚猫》) & 在’ {卖’ ( $\phi$ , 《海贼王大战爱情三脚猫》), 街上}]”が「誰かが、道端において、誰かが《海贼王大战爱情三脚猫》を売りかつ

その出来事が道端に存在するという様態にある」という意味を表している。そして (2a) の式全体である、“有’【在’〔 $\phi$ , 街上, 卖’ ( $\phi$ , 《海賊王大战爱情三脚猫》) & 在’|卖’ ( $\phi$ , 《海賊王大战爱情三脚猫》), 街上|], 前两天】”が「誰か道端において《海賊王大战爱情三脚猫》を売っているが、数日前という〔過去〕の時制にある」という意を示している。次の節では〔現在〕 - 〔簡単〕における“在”構文について論じていくことにしたい。

## 2.2. 〔現在〕 - 〔簡単〕における“在”構文

(3) A : 去把黎昕叫到我书房去。

B : 他, 他这会儿应该在睡觉啊。(テレビドラマ《离婚前规则》  
第 27 話)

(A : 「黎昕を俺の書斎へ呼んでこさせるんだ。」)

(B : 「彼は今きっと寝ていると思います。」)

この (3) では“他这会儿应该在睡觉”的部分について詳述する。発話時間から見ると、この文における“他这会儿应该在睡觉”は“这会儿”が生起しているので、“他这会儿应该在睡觉”は〔現在〕における〔進行〕であると見なすことができる。また、参照時間と成りえる“这会儿”的角度から見ると、“这会儿”と“他在睡觉”は同じ時間帯において存在しているので、〔簡単〕の関係を構成しているという解釈を与えることになる。

さて、次は“他这会儿应该在睡觉啊”が生じる出来事地点について考えたい。発話者 B の視点からいうと、この“在睡觉”という出来事が〔進行〕する場所は“那儿”「あそこ」であると考える。というのは、テレビドラマ《离婚前规则》によると、この場面は家の一階において発話者 A と発話者 B が息子のことについて話し合っているところである。

発話者 A は父親で、発話者 B は母親である。そして、“在睡觉”の動作主である“他”は発話者 A と発話者 B の息子ということになる。よって、息子の習慣を熟知している母親の発話者 B の立場から言うと、息子が行う“在睡觉”的出来事地点は二階の息子の部屋、つまり「あそこ」であることを認識しているので、既知の情報として省略したと推論することができる。従って、“在睡觉”は「彼が、あそこにおいて、寝ている」という命題内容であると解しえる。

また、ここでの“在”が〔進行〕の時態を示しえるのは、“他这会儿应该在睡觉”的動詞である“睡觉”が〔持続〕の意味特徴を保持しているからである。つまり、“睡觉”に内在する〔持続〕の意味特徴によって、〔進行〕の時態を生じさせることが可能となるのである。換言すると、論理上“他睡觉”という出来事が変化することなく存在し続けられるということである。

では、“他这会儿应该在睡觉”において、“在”と関連する成分のみを抽出して論理表記すると以下のようになる。

(3a) ～ニオイテ トル ～ガ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ  
 有’【在’〔他, 那儿, 睡’(他, 觉) & 在’睡’(他, 觉), 那儿〕, 这会儿】  
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ  
 アル ～ガ ～トイウ時制ニ

この論理式は“睡’(他, 觉)”が「彼が睡眠をとる」という意味を表し、“在’睡’(他, 觉), 那儿”が「彼が睡眠をとるという出来事が、あそこに存在する」という意味を表し、“在’〔他, 那儿, 睡’(他, 觉) & 在’睡’(他, 觉), 那儿〕”が「彼が、あそこにおいて、彼が睡眠をとりかつその出来事があそこに存在するという様態にある」という意味を表し、“有’【在’〔他, 那儿, 睡’(他, 觉) & 在’睡’(他, 觉), 那儿〕, 这会儿】”が「彼があそこにおいて睡眠をとっているが、この

時という〔現在〕の時制にある」という意味を表している。

さて次に考察する(4)の文では〔現在〕の時制を表す成分として“現在”が生起している。

(4) 我现在差不多在专心研究佛法。(私は今ほとんどもっぱら仏教を研究しています。)

(テレビドラマ《四世同堂》[2007年版] 第1話)

この(4)では“我现在差不多在专心研究佛法”が考察対象となる。そこで“在”を中心とした考察にするため、便宜を図って“我现在差不多在专心研究佛法”を“我現在在研究佛法”という命題表現に置き換えて論じることにする。この文における時制は“現在”によって〔現在〕の時制であることが分かる。一方、“現在”を参照時間に当て嵌めて“我在研究佛法”との時間関係を考察すると、両者は〔同時〕に成立していると考えることが可能である。従って、両者は〔簡単〕の関係を構成していると見なしえる。

そして、この文における“在”が〔進行〕の時態を表しえるのは、持続動詞の“研究”が重要な役割を果たしている。即ち、“我現在在研究佛法”における動詞“研究”は〔持続〕の意味特徴を有しているが故、概念上「仏教を研究する」という出来事の限度なき存在が実現するのである。

また、“在”的目的語について考えると、“我現在在研究佛法”における“在”的後方には目的語が生起していない。というのは発話時間以外において幾度となく“我研究佛法”という出来事が生じているからである。このように解釈した所以は、“現在”が示す意味にある。即ち、“現在”は《现代汉语词典·第6版》(2012: 1416)によると「この時、発話の時を指す。時に発話前後の一定の時間を含む。」といった意味を表す。従って、“我在研究佛法”という出来事の多発、言い換えると、“我

研究佛法”という出来事が複数存在していると推測しえる。これは、(4)の場面をドラマ《四世同堂》で確認すると、その場面では発話者である“冠晓荷”が実際に仏教について研究している姿が見られないことからもそれが確かな判断であるといえる。よって、“我研究佛法”が到る所で何度も行われており、特定の場所を指示する必要がないことから、“在”的目的語は具体的な出来事地点を示さない“那兒”が生起すると見なしえる<sup>9)</sup>。

以上の分析によって、“现在我在研究佛法”は「私が、ある場所において、仏教を研究している」という意味枠を構成すると考えられる<sup>10)</sup>。

では、(4)の考察の最後に“我現在在研究佛法”において、“在”と時制の役割を果たす“現在”に関連する成分のみを取り出して以下のように論理表記してみよう。

(4a) ～ニオイテ 研究スル ～ガ ～ヲ 存在スル ～ガ ～ニ  
 有’【在’ [我, 那兒, 研究’ (我, 佛法) & 在’ 研究’ (我, 佛法), 那兒], 現在】  
 アル ～ガ ～ニオイテ ～トイウ様態ニ  
 アル ～ガ ～トイウ時制ニ

この論理式は“研究’ (我, 佛法)”が「私が仏教を研究する」という意味を表し、“在’ 研究’ (我, 佛法), 那兒”が「私が仏教を研究するという出来事が、ある場所に存在する」という意味を表し、“在’ [我, 那兒, 研究’ (我, 佛法) & 在’ 研究’ (我, 佛法), 那兒]”が「私が、ある場所において、私が仏教を研究しつつその出来事がある場所に存在するという様態にある」という意味を表し、“有’【在’ [我, 那兒, 研究’ (我, 佛法) & 在’ 研究’ (我, 佛法), 那兒], 現在】”が「私が仏教を研究しているが、現在という〔現在〕の時制にある」という意を表している。

次節では〔進行〕の意を示す“在”構文が〔未来〕の時制において生

起する文を取り上げて分析することにしたい。

### 2.3. [未来] – [簡単] における“在”構文

(5) 我希望能遇上爱情，为了开心，给他找个好爸爸。我也希望有一天回到家的时候，有人在等待我。（テレビドラマ《儿女情更长》第8話）

（愛にめぐり合うことが出来たらいいわ、息子の開心のためにも、よいお父さんを見つけたいの。家に帰った時に、誰かが私を待っていて欲しいとも願っているわ。）

(5) の二行目にある“有人在等待我”は、前節の“我也希望有一天回到家的时候”によって、[未来] の [進行] であると見なすことができる。これは発話時間からの観察である。一方、参照時間、つまり“我也希望有一天回到家的时候”的視点から“有人在等待我”を見ると、この二つの出来事は同時に成立していることが分かる。故に、両者は[簡単]の関係にあると見なしえる。また、“有人在等待”的文が[進行]の意味を表すことができるのは、動詞の“等待”が[持続]の意味特徴を保持しているためである。従って、論理上“有人等待我”という出来事が際限なく存在していることが保証されて[進行]の時態が表現できるのである。

また、“有人在等待我”における“在”的後ろには出来事地点を示す目的語が生起していない。ところが、前節の“我也希望有一天回到家的时候”において“家”が出現しているので、後節の“有人在等待我”的出来事地点も「家」であると解釈することができる。故に、“有人在等待我”では「家」を分かり切った情報として省略したと考えることができる。よって、“有人在等待我”に含まれる意味は「ある人が、家において、私を待っている」と見なしえる。

では、以上の考察を基に、この“有人在等待我”的部分を論理式によって表記しよう。

(5a) ~ニオイテ 待ツ ~ガ ~ヲ 存在スル ~ガ ~ニ  
 有'【在'〔φ, 家, 等待' (φ, 我) & 在' {等待' (φ, 我), 家}〕, 将来】  
 アル ~ガ ~ニオイテ ~トイウ様態ニ  
 アル ~ガ ~トイウ時制ニ

この論理式は“等待' (φ, 我)”が「誰かが私を待つ」という意味を表し、“在' {等待' (φ, 我), 家}”が「誰かが私を待つという出来事が、家に存在する」という意味を表し、“在'〔φ, 家, 等待' (φ, 我) & 在' {等待' (φ, 我), 家}〕”が「誰かが、家において、誰かが私を待ちかつその出来事が家に存在するという様態にある」という意味を表し、“有'【在'〔φ, 家, 等待' (φ, 我) & 在' {等待' (φ, 我), 家}〕, 将来】”が「誰かが家において私を待っているが、ある日という〔未来〕の時制にある」という意味を表している。

以上で(5)の考察を終える。次に挙げる(6)では、“假如”によって〔未来〕における〔進行〕態を構成している文について論じる。

(6) 当他每天一进办公厅的时候，他就先已把眉眼扯成像天王脚下踩着的小鬼，狠狠的向每一个职员示威。坐下，他假装的看公文或报纸，而后忽然的跳起来，扑向一个职员去，看看职员正在干什么。假若那个职员是在写着一封私信，或看着一本书，马上不是记过，便是开除。(小说《四世同堂》730)

(彼は毎日事務室に入ると、大王が虫けらを踏みにじるかのような形相をかまし、ぎょろぎょろと従業員を威嚇した。着席すると公文書や新聞に目を通すふりをした後、ぱっと跳ねあがるが如く従業員に飛びかかる。彼らが正に何をしているのかを偵察するのである。従業員が関係のない手紙を書いていたり、本を読んでいたら、直ぐ

にチェックするかクビにするのだ。)

ここでの“假若那个职员是在写着一封私信”は出来事の仮定を表わす“假如”が生起しているので、発話時間の角度から考えると、“那个职员是在写着一封私信”はまだ生起していない出来事であることが分かる。故に、“那个职员是在写着一封私信”は〔未来〕における〔進行〕であると解釈することができる。そして、この“假如”は出来事の仮定を表すので、これを参照時間とすると、その仮定した未来の時においては“那个职员是在写着一封私信”という出来事が同時に存在していることになる。故に、参照時間と出来事時間は〔簡単〕の関係にあると見なしうる。

このように“那个职员是在写着一封私信”が〔進行〕として考えられるのも、動詞の“写”が概念上果てしなく〔持続〕するからである。その根拠として〔持続〕の意を示す時態助詞“着”が生起している。また“假若那个职员是在写着一封私信”には、出来事の場所を示す目的語が後続していない。しかしながら、“在”的後方には意味上“这儿”が目的語として当て嵌ると見なし、この“这儿”が指示する対象は“办公厅”であると考える。というのは、(6)の一行目にある“当他每天一进办公厅的时候”では“办公厅”が生起しているので、文脈上“那个职员是在写着一封私信”は“办公厅”において生じていると推測することができるからである。従って、“那个职员是在写着一封私信”的部分では、既知の情報として“办公厅”を指示する“这儿”を目的語として生起させなかったと見なしえる。そのため、“那个职员是在写着一封私信”に含まれる正確な意味情報は「あの従業員が、ここにおいて、手紙を書いている」であると考えられる。

では、“假若那个职员是在写着一封私信”において、“在”的文型意味と深く関係する成分のみを取り出して論理表記すると以下のような式と

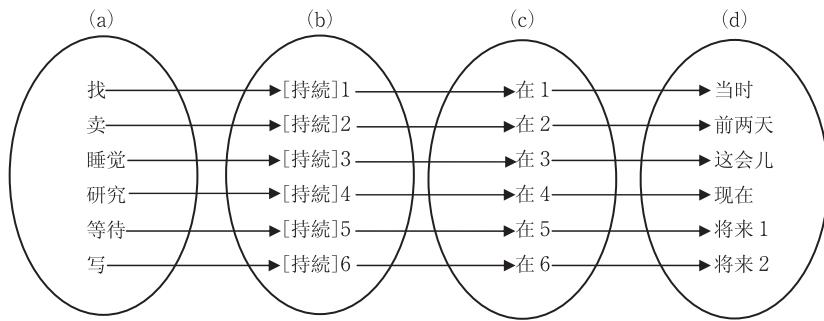
なる。

(6a) ～ニオイテ 書ク ～ガ ～ヲ アル ～ガ ～トイウ時態ニ  
 有'《在'【那个职员, 这儿, 写' (那个职员, 私信) & 有' 写' (那个职员, 私信), 着} &  
 アル ～ガ ～ニオイテ  
 アル ～ガ  
 存在スル ～ガ ～ニ  
 在' [有' 写' (那个职员, 私信), 着}, 这儿]], 将来》  
 ～トイウ様態ニ  
 ～トイウ時制ニ

この論理式は“写” (那个职员, 私信) が「あの従業員が手紙を書く」という意味を表し、“有' 写' (那个职员, 私信), 着}”が「あの従業員が手紙を書くが、[持続] という時態にある」という意味を表し、“在' [有' 写' (那个职员, 私信), 着}, 这儿]”が「あの従業員が手紙を書き続けるという出来事が、ここに存在する」という意味を表し、“在'【那个职员, 这儿, 写' (那个职员, 私信) & 有' 写' (那个职员, 私信), 着} & 在' [有' 写' (那个职员, 私信), 着}, 这儿]”が「あの従業員が、ここにおいて、あの従業員が手紙を書き続けかつその出来事がここに存在するという様態にある」という意味を表し、“有'《在'【那个职员, 这儿, 写' (那个职员, 私信) & 有' 写' (那个职员, 私信), 着} & 在' [有' 写' (那个职员, 私信), 着}, 这儿]], 将来》”が「あの従業員がここにおいて手紙を書き続けているが、もしもという [未来] の時制にある」という意味を表している。

## 2.4. 集合論 (set-theory) の運用による解析

2.1. から 2.3. において考察した文は、集合論を用いると“在”構文の生起過程を以下のように図示することができる。



図一

この図一は四つの楕円によって構成されている。そこで左から順番に (a)、(b)、(c)、(d) と記すことにする。まず、(a) を見られたい。これは本稿の (1) から (6) の分析で関わった動詞が列挙しているので、この各動詞は、(a) の集合における要素 (elements) であるといえる。

次に (b) は、動詞に内在する [持続] の意味特徴の集合を表わしている。従って、(b) の全ての [持続] は (b) の集合における要素であるといえる。なお (b) の要素は全て [持続] であるが、これは時相 (phase) を充足させる役割を果たしている。つまり、具体的な一纏まりの出来事 (event) を構成させる役割を果たしているのである。龚千炎 (1995: 17) はこのような [持続] の意味特徴によって形成する出来事のタイプを “活動情状” (activity situation) と称した。そこで、本稿ではこの “活動情状” を「活動タイプ」と呼ぶことにする。つまり、このタイプは動詞に内在する [持続] の意味特徴によって概念上際限なく [持続] する出来事が構築されるのである。

次に (c) を見られたい。この集合は時態成分の “在” が配列されているので、これらの “在” は全て (c) の集合の要素となっている。

最後の (d) が表わすのは、時制を決定する要素の集合である。

次にこれら四つの集合の中の要素は矢印によって、左から右、つまり

(a) から (b)、(b) から (c)、そして (c) から (d) へと順番に割り当てられている。この操作を写像 (mapping) という。即ち、要素と要素の関係を指定するといった操作をしているのである。

指摘すべき点は、この (a) から (d) までの集合が写像していく順番は、必ず (a)、(b)、(c)、(d) の順番で行われるということである。要するに、この四つの集合は「四つ組」(quadruples) であるということである。

方立 (2000: 45) は「順序付きペアにおける要素が並ぶ順番には意味がある」と述べた。つまり方立は、

$$\langle a, b \rangle \neq \langle b, a \rangle$$

であると見なしている。そこでこの見解に従って、図一の (a) から (d) までの関係にも順番が定まっていると考えることができる。即ち、まず (a) は (b) へ写像して、次に (b) が (c) へ写像する。そして、最後に (c) が (d) へ写像することになる。

では以上の解説を基に、より詳しく図一の各集合の関係について考えてみたい。そこで (a) の一番上にある“找”という動詞を例にして、これが (b)、(c)、(d) の集合へと写像していく過程を検討していくことにしよう。この動詞は本稿の (1) で分析した“当时她在找《简・爱》”において生起したものである。従って以下は時間体系の観点から“当时她在找《简・爱》”の構成プロセスを検討することになる。

まず、意味上文の核を成す動詞“找”が、[持続] の意味特徴を有することによって、時相が成立する。これは即ち、(a) における“找”が (b) における “[持続] 1” へと写像されたことによって表わされている。これにより“当时她在找《简・爱》”の文における時相が充足したことが分かる。

次に、動詞“找”に内在する “[持続] 1” という意味特徴が (c) に

おける“在1”に写像する。この写像は、時相表現から時態表現へ到つたことを意味している。

そして、(c) の時態成分の“在1”が (d) の時制成分である“当时”へ写像すると、時態表現から時制表現へ移行したと理解することができる。以上の写像のプロセスは (1c) の論理式の表記と深く関係している。そこで 2.1 で解析した“当时她在找《简・爱》”の論理式を再度見られたい。

(1c)	～ニオイテ	探ス	～ガ	～ヲ	存在スル	～ガ	～ニ
有'【在' [她, 这里, 找' (她, 《简・爱》) & 在' 找' (她, 《简・爱》), 这里'], 当时】							
アル	～ガ	～ニオイテ			～トイウ 様態ニ		
アル			～ガ			～トイウ 時制ニ	

この論理式は「彼女がここで《简・爱》を探しているが、 “当时” という [過去] の時制にある」という意味を表している。

この式から、時制が最も広範囲に他の成分に対して意味的影響を与えていることに気づく。これは、多くの研究者の見解を形式的な手法によって反映しているといえる。例えば、馬真 (2004: 160) や張谊生 (2004: 176) は、時間副詞の“在”は時態成分の役割を果たすことができると主張し、その根拠として“在”は [過去]、[未来]、[現在] のいずれの時制においても生起する可能性があると見なした。

ここでは馬真 (2004: 160) が挙げた例を三つ紹介する。

### [過去]

- (a) 也许觉察到我在暗暗注意他，吉茨忽然抬起脸朝我一笑。  
 (もしかすると私がこっそり気にかけていることを悟ったのかもしれない、吉茨はふっと顔を挙げて私に笑みを浮かべた。)

## [未来]

(b) 以后，我在跟人家说话时，你最好别插嘴。

(今後私が誰かと話しているときに口を挟まないでください。)

## [現在]

(c) “你爸爸去哪儿啦？”“没去哪里，在备课呢。”

(「あなたのお父さんはどこに行ったのですか？」「何処へも行っておりません、講義の準備をしています。」)

このように“在”が時態成分として〔過去〕、〔現在〕、〔未来〕といった時制の概念に左右されずに生起できるのは、(1c)の論理式が表わすように、時制成分が式の一番外側に位置して、時態成分の“在”に対して意味的影響を与えているからであると推論しえる。

また、(1c)の論理式は、持続動詞によって構成される“找”(她, 《简·爱》)という式の外側に時態成分の“在”による論理式が表記されている。つまり、時態成分の“在”による“在’[她, 这里, 找’(她, 《简·爱》) & 在’{找’(她, 《简·爱》), 这里}]”の式の中には、“找’(她, 《简·爱》)”という式が埋め込まれている。従って、時態表現は時相表現を包摂していると理解しえる。このように解釈した根拠は、龚千炎(1995: 44)の「時態とは出来事のある段階における特定の状態を表わす。」という記述を後ろ盾にすることができる。要するに、時態は、出来事に対する様々な捉え方によって表れる様態なので、時態を表現するには、前提的に具体的な出来事が確立していなければならないのである。これに関連し袁莉容(2011: 127)は、“他吃了一碗饭”は成立するが、“\*他吃了饭”と“\*他吃一碗饭”は完全な出来事ではなく、成立しえないと述べている。よって、時態表現には出来事化が必須であると見なしえる。換言すると、時態を表現する前に時相の充足が求められるということである。これについては、陈平(1988)や龚千炎(1995)に

おいても詳細な記述が見られる。

以上の考察により、時間体系から見た“当时她在找《简·爱》”の文の生起過程は、まず動詞の“找”が持つ〔持続〕の意味特徴によって時相が成立し、次にその時相を進行態として捉えることで時態が成立し、最後にはその〔進行〕を表わす時態が“当时”という〔過去〕において生じることで時制が成立する、という過程を経ることを証明した。そしてこの過程は、集合論の写像と論理式で解析できるということが分かった。

### 3. 結びにかえて

本稿では“在”は〔進行〕の意味を表す時態副詞であるという仮説のもと、“在”と時制との関わりについて詳述した。そこで、絶対時間と相対時間の二つの視点から“在”構文を考察した。その結果、絶対時間から考察すると、発話時間と時態副詞“在”が生起する出来事との時間関係は、〔過去〕における〔進行〕、〔現在〕における〔進行〕、そして〔未来〕における〔進行〕を表現できることが分かった。一方、相対時間から考察すると、参照時間と時態副詞“在”が生起する出来事との時間関係は、〔簡単〕の関係を構成するということを明らかにした。

また、松村（2005）における理論を参照に、命題論理と述語論理を併用した論理式による解析を行い、“在”構文は「～が、～において、という様態にある」という文型意味を形成するということを証明した。

そして最後には集合論を運用して“在”構文の生起プロセスを検討し、時間体系から見た“在”構文の成立は、時相表現から時態表現、そして時態表現から時制表現という過程を踏むことを提示した。

## 注釈

- 1) 龔千炎 (1995: 44) は「時態とは出来事 (event) のある段階における特定の状態を表わす。」と述べ、副詞の“在”は〔進行〕の時態を表わすと見なした。(1995: 89) また、馬真 (2004: 160) や張谊生 (2004: 176) は時間副詞の“在”は時態成分の役割を果たしると主張し、その根拠として“在”は〔過去〕、〔未来〕、〔現在〕のいずれの時制においても生起する可能性を持つと見なした。また、“在”が〔進行〕の意味を表すと解した理由は、以下の研究者による見解を総括して判断した結果である。紙幅の関係のため、下記の如く簡潔に図示する。

研究者	“在”が表す意味
1. 潘文娛 (1980: 44-45)	動作が持続している、或いは進行中。
2. 北京大学中文系 1955・1957 级语言班编 (1982: 620)	動作行為が正に進行の状態。
3. 杉村博文 (1994: 104)	時間の流れを感じさせる行為や状況の継続・進行。
4. 龔千炎 (1995: 89)	進行の状態。
5. 刘月华等 (2001: 396)	動作の進行。
6. 张斌主编 (2001: 683)	動作行為や性質の状態が進行、或いは持続中。
7. 卢福波 (2010: 142)	現在、或いはある時点、ある時間幅における動作の進行性。
8. 袁莉容等 (2010: 169)	進行の意味を表す。動作の持続に幅があることを強調し、時間幅を有する表現。

- 2) もし“在”構文における持続動詞が既に〔終息〕してしまうと、複数の同じ出来事を例挙できないので非文となる。龚千炎 (1995: 95) では成立しえない“在”構文を挙げている。

- (56) \*他在看一眼。 (57) \*他在跑两趟。  
 (58) \*他一天在查一次。 (59) \*你在等一会儿。  
 (60) \*他在躺一个晚上。 (61) \*我只在站 10 分钟。

龚千炎はこれらの文について以下のように説明している。

「在」+動詞の後方には、時間量を示す単語や、動作量を表す単語を伴うことができない。というのは、「在」は動作行為の進行や過程の延長を表わすが、時間量と動作量は過程の〔終息〕を表わす。よって、「在」とこれらの成分は意味上排斥し合うのである。」(龜千炎 1995: 95)

以上の龜千炎による見解から、「在」が時態成分として〔進行〕の意味を表すには後方に生起する動詞が〔終息〕せず〔持続〕を保持しなければならないということが理解できる。

- 3) 詳しくは青木(2013)を参照されたい。
- 4) 丁声树(2009[1961]: 111)は、「我在床上看书」は「私がベッドにいる」と、「読書をするがベッドにある」という意であると述べた。従って、この記述から推測しえることは、「我在床上看书」は「私が、ベッドにおいて、私が読書をする」といった意味枠を構築することが可能である、ということである。
- 5) 李华倬(2010: 92-93)は「我在教室读书」という文に対して以下のような見解を述べた。  
「“我”が教室に居て、かつ勉強をしているなら、両者は時間上等しい効果を果たす。つまり、同時に“我在教室”と“我在读书”という出来事の二つが成立しているのである。よって、ここで生起する二つの“在”は同じ様な意味を有するので、文ではただ一つの“在”を用いればよい。」
- 6) 論理式における括弧は“( )”、“{ }”、“[ ]”、“[ ]”、“《 》”の五つを使用する。そして“( )”が最も作用域(scope)が狭く、“《 》”が最も作用域が広いと仮定する。即ち下記の(a)のように考える。  
(a) ( ) < { } < [ ] < [ ] < {《 》}  
この図は、「( )」は「{ }」より作用域が狭く、「{ }」は「[ ]」より作用域が狭く、「[ ]」は「[ ]」より作用域が狭く、「[ ]」は「《 》」より作用域が狭いことを表している。
- 7) 注釈5)と同様。
- 8) 「他在(副詞)在(前置詞)黑板上写字」という文において、「在」は二つ生起しているが、両者の「在」は合わさって一つになり「他在黑板上写字」と発話する。(張斌 2001: 684)
- 9) “在”的目的語を“那兒”とした見解についての詳細は青木(2013)を参照されたい。
- 10) 原著《四世同堂》ではテレビドラマ《四世同堂》とは異なり、「在」の代わりに“是”が使われている。つまり、テレドラマの“我现在差不多在专心研究佛法”における“在”が小説においては、  
我现在差不多是专心研究佛法(小説《四世同堂》29)

となっている。従って、(4)における“在”は動態的な〔進行〕ではなく、静態的な〔進行〕、厳密に換言すると、〔複数の出来事の存在〕を表すと解釈する方が妥当であるといえる。即ち、〔進行〕の意を表す“在”は、発話者が発話時点において、概念上、複数の“我研究佛法”という出来事を全て様態的に存在させるといった操作を行った、と考えるのである。そして、このように解しえるが故、口語が主体となるドラマ《四世同堂》では、“是”的代わりとして“在”が用いられたと理解するに到りうる。

## 主要参照文献

- 青木萌 2013.「現代中国語の統語成分“在”的用法と意味」、『神奈川大学言語研究第35号』。神奈川大学言語研究センター。
- 松村文芳 2005.『「把構文」と「被構文」に用いられる「給」の意味と論理』。大東文化大学語学教育研究所。
- 丁声树等 2009 [1961].『现代汉语语法讲话』。北京：商务印书馆。
- 方立 2000.『逻辑语义学』。北京：北京语言文化大学出版社。
- 龚千炎 1995.『汉语的时相时制时态』。北京：商务印书馆。
- 李华倬 2010.『基于中国哲学思想的汉语研究』。江苏：江苏大学出版社。
- 马真 2004.『现代汉语虚词研究方法论』。北京：商务印书馆。
- 袁莉容 2010.『现代汉语句子的时间语义范畴研究』。四川：四川大学出版社。
- 张斌主编 2001.『现代汉语虚词词典』。北京：商务印书馆。
- 张谊生 2004.『现代汉语副词探索』。上海：学林出版社。
- 朱德熙 1982.『语法讲义』。北京：商务印书馆。
- Chao, Yuanren. 1968. *A Grammar of Spoken Chinese*. University of California Press.

## 用例参照文献

- 老舍. 1998 『四世同堂』。北京：人民文学出版社。